

## 第3回学ぶ喜び・ESD連続公開講座 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時：2018年11月29日（木）19時～20時30分
- ◇会場：次世代教員養成センター2号館多目的ホール
- ◇参加者数：72名
- ◇内容

### 「学びに向かう学習集団をつくる」

講師：奈良教育大学キャリアアドバイザー 阪本 さゆり 氏

#### 1. 学級経営とは

子どもに自信を持たせることが大切だと思う。  
教師に必要な資質（教師力）は何でしょうか。

- ①対応力（臨機応変な対応）
- ②共感力（子どもによりそう）
- ③感性（人権、色々な人の思いを感じ取る）

授業は学級の状態に左右される。（教師は授業で勝負する、  
と言うけれども）

子どもの心が安心感に満たされていてこそ、自身をもって  
挑戦できる。いろんな学びが生まれてくる。

#### ○校長時代・荒れた学級の例

道徳の授業も効果がなかった

ソーシャルスキルトレーニングができない：担任とのいい人間関係があることが前提

そのクラスの児童の携帯保有状況：47パーセント

メールがいじめの一端になっていた。

#### いじめや荒れの原因

- ・担任との信頼関係ができていない
- ・集団の中に存在する配慮を要する児童について理解できていない
- ・家庭で子どもの心が満たされていない（大人を信用できない）

→未然防止で大切なのは学級経営

#### ○学級経営とは何か「生徒指導提要（文科省、平成22年）」

人と人との交わりの中で子どもは成長していく。どのような人間関係を整備するかが大事。

小・中・高の学習指導要領の総則に学級経営の重要性が述べられている。

担任が学級づくりを構想し、それに向けて日々努力することが重要。

#### ①学級開きの日がとても重要

どんな学級にしようとしているのかを熱く語ること

子どもの第一印象それは保護者にも伝わる

自分ですること（最低限のこと）を伝えておく

#### ②気持ちよく一日のスタートを切るために

子どもは教師のことをよく見ている

元気よくあいさつ、持ち物の整理整頓、宿題や提出物の提出（学校での生活習慣）



朝の会（子どもと朝と一緒に過ごすことが大事だと思っている）

朝読書、プリント学習等、元気調べ、スピーチや日記の発表、今月の歌

- ・元気調べ

総合や生活科の学習のきっかけにできる（取り上げたもらった子どもの意欲の向上）

元気がない子への配慮ができる集団に

時間をしっかり守る（遅刻は他の人の時間を奪ってしまうという意識）

- ・スピーチや日記の発表

話す・聞く力を高める

日々取り組んでいくと、小さな積み重ねが子どもの力になっていく

友達の新しい一面に気づくきっかけになる

- ・今月の歌・学級の歌（替え歌での可）

子どもと一緒に自分たちの歌を作る。学級集団をまとめる力になる。子どもの心が一つに。

学級会や発表会、話し合い活動の前に歌う。

### ③子どもとの信頼関係を築く

○子どもの願いに気づき、実現できるように配慮する

- ・私たちのことをわかってくれる
- ・頑張っていることをほめてくれる
- ・悪いことをしたときは、叱ってくれる
- ・困っていたら助けてくれる

→40人の子どもと信頼関係を築くのは大変だが、信頼感が失われるのは一瞬。

→子どもたちにいい姿を見せてほしい。

先生は影響力が大きい 話し方・服装・手本となる姿は何なのかを考えること

授業中と休み時間のメリハリを考える

### ③自発的・自治的な活動の充実を図る

先生がいちいち押し付けていては子どもは育たない

- ・学級目標 どんなクラスにしたいかを子どもたちに考えさせる
- ・当番と係活動 係活動は子どもの自発的・自治的な活動を発揮させるチャンス

仕事の中身を子どもにまかせて、工夫させる。

友達が喜んでくれた → 自己有用感が高まる → いじめはない



- ・みんな遊び 遊びやルールを自分たちで考えさせる  
満足感や達成感が成長に結びついていく

○学級経営の中で担任がちょっとした工夫をすることで子どもの自発的・自治的活動意欲が高まる

④学びに向かう学習集団づくりⅠ

○学習規律を理解させる

- ・時間を守ることを徹底させる
- ・聴き方、話し方 傾聴の態度、自分の考えを伝えることができるスキルを磨く

⑤学習形態（座席の配置）を工夫する

- ・いい関係性をつくるために学習環境を工夫する  
スクール形式 コの字型（話が聞きあえる・見あえるように、机間指導もやりやすい）  
4人グループ（学びの共同体）での学びが一番よかった

○子ども同士の学びあいはどうすれば活性化するかを考えることが大切



⑥学びに向かう学習集団づくりⅡ

- ・気づきの交流  
気づいたことをしっかり伝えること・聴き合うことが次の気づきにつながっていく。  
掲示を工夫する（気づきカードを掲示する、新聞なども）。更新することが重要
- ・協働（協力して）と協同（役割を分担して）  
グループの中に役割をもたせる（給食担当・掃除担当・集め配り担当）

⑦学びに向かう学習集団づくりⅢ

- ・先生からの声掛けは重要  
具体的に認める・ほめる（どこを見てほめているのかが子どもに伝わっていること）  
ノートへのコメントも、どこがいいのかわかる具体的なコメントが大事（価値づける）
- ・怒るではなく叱る  
よくない点を明確に伝える、理由を理解させる  
指示しすぎるのは逆効果（子どもに考えさせることが重要）  
いつまでも引きずらない、さかのぼってあれこれ言わない
- ・子どもの個性や可能性を伸ばす声掛け  
プラスポイントを気づいて声掛け  
子どもの協力の姿を評価して声掛け（よさを認めて）

⑧人との関りから学ぶ（生活科）

2年生が1年生に関わる活動・学校を案内、朝顔の育て方を教える  
町のすてきをみつけよう 行ってみたいところを自分たちで考える  
動物と仲良し（命の学習：心音を聴き合う）

リバーウォッチング（佐保川）・タウンウォッチング（東大寺）→もっと住みよい町にするために

⑨子どもの心をつかむ

子どもの心をつかんで、より良い学びの方にもっていくのが担任の力の見せどころ

子どもの力を信じて任せる 役に立つ自分の発見が意欲の向上につながる

